

令和7年度 学力・学習状況調査

浅羽中学校の分析と今後の対策について

この報告書は、今年度の全国学力・学習状況調査の結果を受け、本校で問題や質問を分析し、本校の生徒に見られる顕著な表れに的を絞って記述しています。今後は、生徒のさらなる学力向上を目指し、以下の対策に取り組むとともに、家庭と連携して一人ひとりの生活習慣も充実させたいと考えています。保護者の方々の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

1 生活習慣や学習環境に関する質問紙（○よい点 ◆課題が見られる点）

主な傾向	本校としての取組・御家庭へのお願い
○学校に行くのは楽しい。 ○道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。 ○PC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理したり、収集したりすることができる。 ○友達関係に満足している。 ○人の役に立つ人間になりたい。 ○自分にはよいところがある。 ○朝食を食べている。 ○毎日同じ時間に寝て、同じ時間に起きている。 ○人が困っているときは、進んで助けている。 ◆PC・タブレットなどのICT機器を使って文章を書いたり、発表のスライドを作ったりすることができる。	浅羽学園では、園・小・中が連携し合い、さまざまな教育活動において「任せて認める」指導を行っています。その成果が今回の調査結果につながっていると考えられます。引き続き、プロセスを重視し、さまざまな場面で承認を与えながら、生徒の自己肯定感（ありのままの自分を肯定する感情）や自己有用感（他者の役に立っているという感情）を育むことにより、生徒の主体的に学ぼうとする力や級友と協力して課題を解決する力を高めていきます。そして課題であるICT機器を使った言語活動を充実させていきたいと思ひます。 また、就寝・起床時間や朝食を食べること等、生活習慣に関する調査結果が良かったことが、充実した学校生活につながっていると思ひます。御家庭での御協力に感謝申し上げます。

2 教科に関する調査（○よい点 ◆課題が見られる点）

【数学】

学力調査から見えた顕著な表れ	今後の対策や継続する点
○領域「A 数と式」の、事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する問題や、領域「D データの活用」の相対度数を求める問題では、正答率が全国平均を大きく上回っている。 ○領域「B 図形」や「C 関数」の問題においても、正答率が全国平均とほとんど同率か少し上回っている問題がある。 ◆ほとんどの領域において、正答率が全国平均を下回っている。特に、領域「C 関数」については、全ての問題で全国平均を下回っている。 ◆観点別には「思考力・判断力・表現力」が全国平均との差が大きい。また、記述式の問題についても全国平均との差が大きい。 【質問紙より】 ○ほとんどの質問において、肯定的な回答が過半数を超えている。 ◆「数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか」という質問に対して、全国平均と比べて肯定率が低く、肯定的な回答が過半数を下回っている。	どの領域においても、一定のところまでは力がついていると考えられます。基本を押さえた授業や個別の支援を継続し、一人一人の前向きに取り組む姿勢を大切にしていきます。 「思考力・判断力・表現力」をさらに高めるために授業で以下のことに取り組みます。 ・「どのように考えたのかについて説明する活動」を意識的に設定します。ペアで伝えあう活動や、課題に対してグループで協力して取り組む活動などを増やしていきます。 ・ペアやグループ活動において、説明や表現の仕方の模範を示すことで、良い考え方や表現の仕方を学習するとともに、自信が付けられるようにします。 領域に関係なく、知識については偏りがあるため、こまめな復習が必要です。授業では復習を取り入れながら新しい内容を進めていきます。

【国語】

学力調査から見えた顕著な表れ	今後の対策や継続する点
○目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしたり、資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫したりする問題では、正答率が全国平均を上回っている。 ○読み手の立場に立って表記や叙述の仕方を確かめて、文章を整える問題では、正答率が全国平均を上回っている。 ◆文脈に沿った漢字や事象を表す語彙など、言葉の特徴や使い方に関する問題の正答率が低い。 ◆内容のまとまりを意識して、文章の構成や展開を捉える問題において、正答率が全国を下回っている。 ◆複数の条件を満たして論述しなければならない場合に、全ての条件を満たすことなく解答を作成してしまう傾向がある。 【質問紙より】 ○「文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み返し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうかを確かめて文章を整えているか」に対する肯定率が全国を上回っている。 ○解答を文章で書く問題について、積極的に記述しようとして取り組んだ生徒の割合が全国平均を上回っている。 ◆「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うか」に対する肯定率は85.6%であるが、一方で「そう思わない」という回答の割合が全国平均より多い。	文章で答える記述式の問題の正答率が全国平均を上回っており、無解答率も低い傾向があることから、問いに対する自分の考えを文章で書こうという意識の高さがあると考えられます。また、相手に分かりやすく伝えるために文章を整えたり、表現の工夫をしたりする力も身に付いてきており、これは、日頃の授業で学習課題に対する考えを対話や文章によって表出してきた成果の表れだと言えるでしょう。 一方で、論述をする際に提示された条件を満たすことと、長い文章の構成や展開を捉えることが苦手であるという実態も見えてきました。また、漢字や語彙に関する知識の定着がやや低いということも明らかになりました。 【今後の対策】 ・「書くこと」「話すこと」により考えを表出する活動については、今後も継続的に行っていきます。 ・言葉や漢字の意味や使い方を辞書で調べ、それらを活用して表現する機会を多く設けます。 ・複数の情報を関連付け、条件を満たして自分の考えを形成する場面を意図的に設定します。 ・説明的な文章の読解の際、段落の働きや論の展開、「事実」と「意見」の関係などを押さえることに重点をおいて学習をしていきます。

【理科】

学力調査から見えた顕著な表れ	今後の対策や継続する点
○多くの領域に置いて全国平均を上回っている。 ○無回答率が低い。 ◆短答式の問題（用語で答えるような問題）の正答率が全国平均と比べて低い。 ◆学習内容に関する身近な事象を問われた問題の正答率が全国平均と比べて低い。 【質問紙より】 ○「理科の勉強は得意か」「理科の勉強は好きか」「授業内容がよく分かるか」などの質問は全国、県と比べてもポイントが高くなっており、生徒が理科の勉強に対して前向きで、意欲的になっていることが分かる。 ○「授業中に実験や観察を行っているか」「仮説をもとに実験の計画を立てているか」の質問も全国、県と比べてポイントが高くなっている。 ◆「理科の学習内容は将来役に立つと思うか」「将来理科に関する職業に就きたいか」「理科の学習した考え方を生活で活用できているか」などの質問は全国、県と比べてポイントが低くなっている。	・1年生からの継続した理科の授業への取組が良い形で表れたと思います。これまで意識して行ってきた「分かりやすく楽しい授業」「仮説を大切に実験に取り組む授業」を継続して行っています。 ・思考する場面、話し合う場面などを意識的に取り入れて授業を行ってきました。その結果として全体的に正答率が高くなったり、無回答率が低くなったりした反面、基盤となる基本的な知識の定着がおろそかになっている可能性があります。身近な事象とつなげて捉えるなどして、確実に定着できるよう意識して授業を行っていきます。 ・振り返りを充実させるなどの方法で、生徒自身が理科の学習内容を普段の生活と結びつけて捉えたり、社会でどのように活用されているか考えたりする機会を増やしていきます。

